

令和5年度 第1回 学校運営協議会 議事録

日時 5月9日(火) 14:00~15:00

場所 水沢高校 大会議室

(1) 開会

※ 資料確認

郵送した資料に綴じられている「学校運営協会委員の任用状況について」は、3月に県へ提出したものであり、委員が変更になった方や、役職が変更になった方がいるため、5月に県へ提出した新しい資料に差し替え。

(2) 校長挨拶

お忙しい中ありがとうございます。2年前までは学校評議員会だったものが学校運営協議会になりました。初めて委員をされる方もおいでですので、その違いを少しだけ説明し、あいさつに代えたいと思います。学校評議員会は、校長の求めに応じて学校運営に関して個人として意見をいただくことを任務としていました。学校運営協議会は、校長が作成する基本方針についてご承諾をいただき、これは今までとあまり変わりませんが、実はその他に教職員の人事などにもかかわる、協議制の機関となりました。そういう意味では学校に必要な人材の確保、こうあってほしいという意見をまとめるところでもあり、ご忌憚のない意見をお願いします。本日はよろしくお願ひいたします。

(3) 自己紹介

資料の通り(山下氏が欠席 13名の参加)

(4) 学校概況説明 校長

令和5年度 岩手県立水沢高等学校学校経営計画について

本計画は校長が毎年作成するもの。昨年度と様式が変わりスクールポリシーが入っていることと、中身や目標値が多少変わっている。

1 校訓・教育目標について

水沢高校には校訓はないが、教育目標のほかに、「生徒会モットー」と「水高精神」というものがあり、これは変わらず受け継がれているもの。

2 スクールポリシーについて

昨年度までにすべての高校で作成することになっており、HPで公開しているものを文章化したもの。

(1) グラデュエーションポリシーは卒業する時にどのような力をつけてほしいかを示し、(2) カリキュラムポリシーは、在学中のカリキュラムを中心に、(3) アドミッションポリシーは本校に入学する中学生に求めているもの。

(2) の(3)では、一年生全員が「理数探究基礎」を受講することで、2年前まで指定を受けていたSSHで培った理数教育を続けていき、2年生では、普通科が探究を理数科では理数探究を学ぶところが本校の特徴となる。

(3) については、入学式の式辞で、基礎学力をつけ、世界の出来事にも大きな関心を持ち、価値観の多様化を尊重できる人であってほしいことを話している。

3 魅力化協働パートナーについて

奥州市役所、奥州市文化会館など様々な人と手を取りあって子供たちを育てたいということで協力いただいている。現在、大学関係の方は入っていないが、今後このメンバーに加わってほしいと考えている。

4 目指す学校像について

(1) の重点目標では、達成指標を示し、2月に確認して県に報告することになっている。目標一つに対し指標も一つにし、努力目標ではなくしっかり達成できるものを示している。

アに対しての指標は、本校に入学してよかったと答える生徒保護者の割合で、昨年アンケート結果では、生徒は85.3%保護者が87.8%良かったと回答しており、今年度も維持したい。

イの指標に対しては、昨年86.3%が多くあると答えており、逆にあまりしていないという生徒が10数パーセントいるが、今後対応していきたい。

ウについては、部活動や校外の諸活動に取り組んでいる生徒の割合とした。部活動は任意加入であるが、本校ではかなりの生徒が加入している。校外の諸活動については、コロナでかなり制限されていたが、徐々に海外研修も含めて元に戻りつつある。昨年度部活動を頑張っている割合は83.7%で、加入している割合はもっと高いが、一生懸命やっているといえない人は入っていない。諸活動については、59%であり、合わせて80%を維持していきたい。保護者については数%低めに出ている。

エについては、昨年生徒は84.4%が大切にしていると答えているが、保護者は76.4%で、生徒は大切にしていると感じているが保護者はそうでもないと感じているようなので、しっかりと説明していきたい。

オのいじめについては、県立高校共通で目標値を設定することになっている。本校の昨年のアンケート結果は生徒が87.6%、保護者が81%ぐらいで認識に差がある。いじめは思春期の生徒にはおこりうることであるが、早く認知し解決に取り組みたい。

(2) については、重点目標に対し具体的に書いている。特に(ア)については、重視している。今回も学校運営協議会にここにあげるメンバーが入っており、協力して支えていただきながら将来地域を支える生徒を育てたい。その他、探究活動・課題研究等について記入してある。

スクールポリシーについて

資料の通り(昨年度と変更していない)

働き方改革アクションプランについて

令和4年度のもの載せている。令和5年度のは現在作成中である。

働き方改革をしっかりと進めなさい、学校の魅力化を進め成果を出しなさい、ただし教員定数は現状のままですと厳しいことを言われているが、先生方については残業時間を80時間超えないように努力している。国は45時間と言っているが、45時間はあっという間に過ぎてしまう。100時間を超えると産業医との面談等いろいろあるが、生徒のために頑張っている先生たちはたくさんいる。ただ、先生方にも家庭があり、ワークライフバランスをとることは大切なので、業務の見直し、業務の平準化等に取り組んでいるところである。

進路実績について(進路指導主事 目黒賢哉)

国公立大学の合格は110名となっている。卒業生の数が例年よりやや少ないので、52%となり、昨年の47%、一昨年は56%で、今回は卒業生の半数を超えている。難関大については3名(過年度卒を含めると4名)、医学部については、秋田大学・弘前大学の医学部が各1名、岩手医大が1名の計3名となる。公務員が4名で奥州市がうち3名、花巻の消防に1名、民間就職はここ10年ぐらいなかったのだが、1名希望があり、その時点でハローワーク等と相談しながら就職を決めた。私立大学は資料の通り。国公立大学に合格しても私立大学を選ぶ生徒もいるので国公立大学に進学した生徒が107名、私大が76名。その他短大や専門学校に進学した生徒もいる。浪人した生徒は10名。他校よりはだいぶ少ない結果となった。

(5) 協議

協議に先立ち、会長・副会長を決定

会長 東 隆司 氏

副会長 鈴木美喜子 氏

経緯

・学校評議委員会から学校運営協議会に代わるにあたり、本来なら会長等の選出が必要だったのだが行われなかったため、急遽決めることとなった。

・東会長から、会の規定・規約・役職等を明らかにしてほしいとの要望があり、第2回の協議会で提示することとなった。

本日の協議の進行については、本来は会長が行うが、今回は菊地副校長が行う。

質疑・応答

鈴木 美喜子 氏

「魅力化協働パートナーとは、各組織とさらに連携して子どもたちを育てていこうという認識でよろしいか。」

校長

「その通り。」

大越 克芳 氏

「いままで制限されていた学校行事で元に戻そうとしているのは何かないか」

校長

「単純に元に戻すのではなく、実施期間や内容を精査して時間や来校者の制限を緩和して行っていきたい。昨年できなかった行事は応援歌練習で、今年は4日間行った。」

東 隆司 氏

「顧問の先生方の土日・放課後の時間を勤務について伺いたい。部活動指導員の活用についてもうかがいたい」

校長

「今の時期が特に高総体があってオーバーワークになりやすい。長期休暇中なども使って休みを取るようには勤めているが、なかなか苦しいのが現状。部活動指導員については、現状1人いるが、なかなか手が見つからない。」

五十嵐 智行 氏

「アドミッションポリシーについて、中学生にどう伝えているか知りたい。」

校長

「ホームページに掲載しており中学生が自由に見ることができる。」

鈴木 美喜子 氏

「アクティブに、先を読んだり見越したりして動くことができる生徒を育ててほしい。」

校長

「コロナがあり、行事等でも自主的に動ける機会が少なかったし、中学校でもやれなかったことが多くあったと思う。今後は生徒の自主性を育てていきたい。」

後藤 康 氏

「中学校でも、生徒たちが「おりこうさん」になってきている。真面目でいいが、それで満足しないようにと指導している。卒業後に地元に戻ってくるかどうかを中学校も注視している。」

廣野 基宣 氏

「奥州地区の生徒たちが地元に戻ってくるように、探究活動などで、地域の問題を考える機会や、地元の協力者と結びつけていきたい。」

東 隆司 氏

「地域の人口減少は大きな問題であり、故郷に帰りたいと思わせるスイッチをどうやって入れるか、高校の活動に期待している。」

佐々木 敏紀 氏

「入学してよかったが85%いるが、残りの15%の生徒についてどう考えているか。」

校長

「自己肯定感が低い生徒がいる。そのような生徒はすごく良いとはなかなか言わない。また、学校行事の制限があったので、思うようにはできなかった部分もある。制限がなくなることによって、良いと感じる生徒が増えることを期待している。」

浅間 光将 氏

「アンケート結果で、保護者が「ア 本校に入学してよかった」の設問に対しては約87%が良かったと答えており、「エ 一人一人を大切にされた指導・支援をしている」では、74%となっている。この10%の開きに対する検証を行っているのか」

校長

「学校が何をやっているのかの発信や、学校を実際に見てもらえる機会を増やそうと考えている。アンケートの一つ一つの分析はこれから行いたい。」

浅間氏

「アンケートの問いの形式を聞きたい」

教務主任 松澤

「マイクロソフトのフォームで行い、選択肢から選ぶものと記載するものもあった。記載が多かったものは校舎のトイレについてであった。」

浅間氏

「保護者が学校側に求めるものが多いのではないかと。問題点があったら教えてほしい。」

校長

「基本的な生活習慣については家庭の指導で行ってもらい中学校までにある程度できるようになってもらいたい。高校ではさらにその上を目指している。」

(6) その他

副校長

今年度も昨年と同様3回の開催を予定している。

第2回を10月中旬、第3回の実施と2月中旬と考えている。行事の合間を見ての開催で一方的なご案内になると思うが、よろしくお願ひします。

校長より

第2回の会議では、中間反省会の結果を提示する予定。第3回では、今年度の学校アンケート結果を見ていただき、意見をいただく機会にしたい。

(7) 閉会